

令和7年3月定例会議 一般質問

11 番議員 前田 せつよ

がん対策における「施策の推進」及び「がん教育」を問う

がんは日本人の2人に1人がかかる病気であり、その対策としては早期発見と早期治療が有効とされている。健康寿命の延伸のためにも健康診断及び検診を行うことが極めて重要である。

がん検診の受診率の向上を図るために、例えば特定健診の最初の年齢となる40歳の町民に対して費用を無償化することにより、健康診断及びがん検診のハードルが下がり、健診のきっかけとなり継続にも繋がっていくと考える。

さらに、年齢による生活習慣病の予備軍を発見することにもなる。

現在、がん治療や手術に伴い外見の変化に悩む町民から、ウィッグは高額であるとの声を聴く。町民に寄り添う施策として町が購入費用を助成する支援も必要と考える。

また、児童（小学校高学年）を対象にがん教育を行うことは、身近な病気となっているがんを学ぶことで生命の大切さをより深く知ることにもできる。

町民の健康な暮らしを守るためにがん対策の視点から次の項目を問う。

- 1 特定健診初年度の40歳を対象に健康診断及びがん検診費用を無償にする考えは。
- 2 がん治療に伴う外見の変化に悩む町民支援のため、ウィッグ購入費を助成する考えは。
- 3 小学校高学年を対象に「がん教育」を行う考えは。